



第62回 全道スカウティング研究協議会 基調講演
「初代チーフ・スカウト下田豊松先達と国際登録」



ボーイスカウト北海道連盟
相談役
旭川第12団 育成会長

森 豊

1. はじめに

皆様こんにちは。只今御紹介いただいた森でございます。
まず、今日ここに御参集の皆様の日頃のスカウト運動に対する御熱意に対して心からの敬意と御礼を申し上げます。

昨年（2022年）が日本連盟創立100年でありました。これは1922年4月静岡での全国少年団大会で決定された「少年団日本連盟 設立」を起源としたものです。しかし、北海道でスカウティングを展開する者にとって、もうひとつの100年を忘れることはできません。それは同じ1922年8月パリでの第2回国際会議で、北海道岩内の下田豊松によって創設された「日本健児団」が国際承認されて100年が経過したということです。これにより日本は現在のWOSM 前身の International bureau のチャーターメンバーになった栄誉とともに、スカウト運動の国際性を享受する手だてを得たことを意味します。

その2年前の1920（大正9）年、岩内少年団長 下田豊松は東京少年団理事 小柴博と、また船中で出会った横浜グリフィン隊リチャード鈴木少年と3人で各々が個人の資格で、しかも私費

で、ロンドンでの第1回国際会議並びに国際ジャンボリーに参加し、その中で下田らはB-Pの求めに応じ、日本の国際登録を約束します。

下田は帰国後、直ちに国際登録するための「日本健児団」を創り、自らをチーフ・スカウトとして国際登録します。

後発の少年団日本連盟も国際登録しようとしませんが、一国一制度の原則にはばまれ、その2年後、1924年コペンハーゲンでの第3回国際会議で、下田の「日本健児団」を継承するかたちで国際登録します。そうすると1922年から1924年までは国際的に下田が日本のチーフ・スカウトであったこととなります。これが下田が“初代”であったという意味です。

下田はこの一連の作業に10000円、現在の3000~4000万円を用意したと云われております。このようなケタはずれのことが今から100年前、北海道の一地方少年団長の手によりおこなわれたのです。

2. 下田の人物像について

下田の生まれ育った岩内ですが、今でこそ少し寂れておりますが、当時はにしん漁が最盛の時点で、人口は2万人以上、活気のある経済、物流の拠点として発展しておりました。

下田家は駅前近くで商店を営んでおり、その商風はきわめて堅実であったと云われています。下田は道庁立函館商業学校に進学、ここを20歳で卒業、その年明治40年12月1日に旭川第七師団歩兵第二七連隊に一年志願兵として入営します。

そして明治45年予備少尉、大正8年予備中尉に進級、この軍歴が、在郷軍人会役員、しいては少年団創設の下地に直結したものになりました。

時代的背景ですが、下田が生まれたのは明治20年、その7年後に日清戦争がまたその10年後に日露戦争が勃発、下田が入営したのはその2年後で、国内的には大国ロシアに勝利したものの、巨額の債務のため、庶民の生活は疲弊しておりました。

3. 宇都宮太郎師団長との出会いと岩内少年団創立

旭川での兵役を終えた下田は岩内に戻り、家業に従事するかたわら、在郷軍人会役員として活動しますが、その中で一大転機となる出来事に遭遇します。それは1914年大正3年10月、岩内倶知安地方で実施された旭川第七師団の秋季演習で、それを支援する在郷軍人会役員の下田は宇都宮師団長と話しをする機会を得たことです。

ここで宇都宮師団長（当時中将）についてお話ししますが、宇都宮は佐賀出身のエリート軍人で、その軍歴で注目すべきは、日露戦争をはさんだ1901~1905年までの約5年間駐英武官としてロンドンに滞在しており、数々の重要任務に就いておりました。また帰国して旭川に赴任する数年間は参謀本部第2部長（情報）として、内外の情報の収集統括する軍務に服しておりました。その中でポーア戦争の英雄としてのB-Pの存在、乃木希典のB-Pと英国でのスカウト運動のレポートなどを熟知しており、これらの知識情報を背景に少年団運動の重要性、社会に与える影響力を知り、赴任地旭川で少年団設立をもくろんでいた宇都宮に、下田は少年団設立構想を相談します。幾度かの言葉のやりとりの後、宇都宮は下田に「それではいつ少年団を創るつもりか」と

問いただきます。恐らく下田はそこまで具体的に考えていなかったと思いますが、「大正 10 年頃には」と返答します。それに宇都宮は「それでは遅い、すぐ創れ」と対峙しました。これは正しく、師団長からの厳命であり、その 1 年 8 ヶ月後に旭川少年団につづく岩内少年団を創設させました。

4. 渡英そして国際登録

1919 (大正 8) 年、小柴博の大日本少年団経由で英国での第 1 回国際会議並びに国際ジャンボリーの案内がもたらされました。下田はただちに参加することを決め渡航準備に入ります。これに準備したお金は当時の 10000 円、横浜に日本郵船の博物館があり、ここに当時のロンドンまでの 1 等船賃を問い合わせたところ、行き 940 円、帰り 741 円、これだけで現在の数百万円になります。

約 2 か月を経て、ロンドンに着いてみれば当時は日英同盟下ということもありイギリス、B-P 側の歓迎は並々ならぬものがあり正に連日が興奮のルツボでした。この辺の状況、大会の様子は『先哲に学ぶ』(道連発行)を再読して頂きたいと思います。

大会を前にした一行は B-P を表敬訪問しますが、その中で日本の国際登録を強くうながされ、下田らはこれに同意します。しかし、日本国内の状況はそれを直ちに受け入れる状態になく、結果小柴の意見具申もあり、中央のしがらみから離れた北海道の下田が、早急に国際登録するための組織を立ち上げ、国際登録するとの結論を得たと考えております。そして下田は帰国して 2、3 ヶ月しかたため 1921 年 1 月 1 日「日本健児団」を創立し、遅くともその年内に今でいう登録フォームをロンドンに送付、受理され、その翌年の 1922 年パリでの第 2 回国際会議で、国際登録が承認されました。

5. 下田家への調査と国際登録の写しのこと

私の下田へのアプローチは今から 25 年前のことで、当時 3 男の真さん、4 男の恒久さんがお元気で、いろいろの資料をみせて頂きました。その中で気付いたのは下田という人は“そなえよつねに”のカガミのような用意周到の人物であったということです。ならば、下田が心血を注いだ「国際登録」の写し、あるいはロンドンからの登録承認書の類が必ず保存されているということでした。しかし、御家族は「ない」とのこと、「それではどこに」と考えた訳ですが、私は「日本連盟にある」と直感しました。私がこれに注目したのは、仮にこれが出て公になれば初代少年団日本連盟総裁 後藤新平の座が文献的に否定されることを意味し、日連として運動史を正面から書き換える必要に迫られることになるからです。これに関する調査も精力的に行いましたが、結果的に不明のままでした。

6. 下田の国際登録への評価

これについての少年団日本連盟、あるいはボーイスカウト日本連盟の評価については、表向き「良くやった」と評価されていたと考えておりますが、本根のある部分は、先に挙げた理由で「北

海道の田舎者が何をしてくれたか」と考えた人がいたのは事実とあるスカウト史研究者から聞いたことがあります。これを裏付ける様に、これまでの日連運動史では一切、下田の国際登録のことは記載されておられません。私宛、第7代渡邊昭総長の書簡においても、下田の功績については認めつつも、それ程単純でないことが読み取れるものでした。

7. 小柴博と下田の関係について

小柴博は日本初の東京少年団を創り、また全国の少年団の連絡調整として大日本少年団を主導した、いわば少年団運動の第一任者でした。しかし、小柴については不可解な点が多く認められます。まずイギリス行きですが、余り興味がない様でした。また小柴は下田のことをほとんど何も記しておられません。また、下田も小柴のことを記録しておられません。帰国した下田はB-Pと約束した国際登録に全力投球しますが、小柴は『日本の少年団』という著作を帰国2年後にかきあげその翌春に出版します。その骨子は書名のとおり「運動の国際性は認めるが、それはあくまで日本的であるべきで、その日本的にしても、地方性、地方の独自性を尊重したものでなければならぬ」という論調に貫かれています。つまり極論すれば、下田の外向きに対して小柴は全くその逆の内向きで、2人が協力して日本の少年団運動の国際性を切り開いたとは言い難い関係にあったと考えております。小柴は新制なった少年団日本連盟にも冷やかで、帰国5年余り後に急逝しました。ロンドンで撮った2人の写真はそんな小柴を暗示させるものとも私には感ぜられません。

8. 結 語

今から100年前、私たち北海道の大先輩、下田豊松が為した国際登録を軸にお話ししました。ややもすると「何が無い かにがだめだ」と不平不満の原因を他に求める傾向がある現代にあって、ならば自力独力でやると突き進んだ100年前の下田のパイオニア精神から、私たちは何を感じ学ぶかを考える全道研であることを祈念し、今後の皆様の御健闘を期待し私の話を終わります。ありがとうございました。

(以上講演者 自抄)



第 62 回全道スカウティング研究協議会

事例研究



プログラム研究・閉会式



ゲームアイデア

第62回スカウティング研究協議会 部門研修資料

ねことねずみ

中央ラインにねこチームとねずみチームが向かい合って立つ
それぞれの後ろには安全地帯ラインがある
審判が「ね、ね、ね ねずみ！」と言ったらネズミが強くなりねこを捕まえられる
「ね、ね、ね ねこ！」と言ったら猫が強くなりねずみを捕まえられる
捕まえられたら相手チームのメンバーになる
捕まらずに安全地帯にたどり着いたらセーフ
または、安全地帯なしで次々にコールが変わるでも良い
「ね、ね、ね ネパール人」などランダムに入れるのも良い

助さん格さんしゃがみなされ

全員で円になって一つのボールを誰でも良いので誰かに放る
ボールを投げられた人は必ずキャッチする
キャッチした人の左右両隣の人は「頭が高ーい」と言いながらしゃがまなければならない
出来なかった人は脱落する(またはできた人は上がり)
チーム対抗とするなら、どちらのチームが多く残ったかで勝敗が決まる
または最後まで残ったチームが負けでも良い

ゲタゲタ鬼太郎リレー

4枚の下駄(板やダンボール)に必ず手と足を置き四つん這いから始める
足の下駄を手で前に出しそこに足を乗せる繰り返しで前に進む
折り返しポイントまたは同じグループが二手に分かれてのリレー

獲物を狙え！ハンターVSOSO

チームで肩に手をかけ円陣を組む、1人だけハンカチ等で尻尾を付ける
腰または背中からぶら下げるでも良い
しっぽを取りに行くハンターをチームから1人決め、ハンターは他チームのしっぽを取る
円陣を作っているメンバーは、他チームのハンターに尻尾を取られないように
円陣ごとぐるぐると回る
制限時間を決めて、多く尻尾を取ったチームに勝ち
少人数の時は、交代でハンターになり、一番短い時間で尻尾を取った人の勝ち

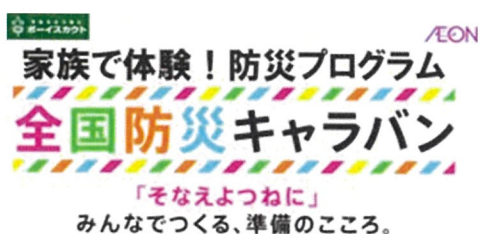
リバーラフティング(ボール送り)

同じグループ同士で向かい合い何組かで並ぶ
スズランテープ(難しければタオルでも可)を向かい合った同士で持ち室内なら
風船、野外ならビーチボールで次々に送り最後はゴールの箱に入れる
早くゴールしたほうが勝ち





月	日	場所	地区・団	タイトル
7	9	北海道護国神社	旭川地区	みんなで遊ぼう！ひみつ基地
7	23	サッポロさとらんど	札幌第10団	どきどき野外料理♪♪
7	23	秩父別町ふれあいプラザ	留萌地区	君は、防災ヒーロー！
7	29	北見さくら幼稚園	北見第2団	ひみつの森へ大ぼうけんに出かけよう！
9	3	市民農園ベジタブルファーム	札幌第12団	ワクワク 収穫体験
9	24	カトリック札幌教区青少年の家	札幌第26団	ダンボール DE ピザ
10	1	百合が原公園	札幌第10団	カブファイル事件簿
11	5	カトリック札幌教区青少年の家	札幌第26団	ソーセージ DE キャンプ飯
11	5	天童寺	札幌第12団	秋空レストラン落ち葉 de クッキング
11	5	旭川中央公民館	旭川第21団	秋のワクワク工作（1回目）
11	12	旭川市 CoCoDe	旭川第21団	秋のワクワク工作（2回目）
12	3	天童寺	札幌第12団	自然素材 DE クリスマスリース作り
12	23	本願寺函館別院	函館第2団	ぺたぺたぺったん、白と杵



「思いやり防災」をテーマにボーイスカウトとイオンモールが子供と家族と地域の防災教育の機会として文部科学省の後押しをうけて、2016年から全国で開催している「全国防災キャラバン2023」が11月26日イオンモール 釧路昭和の1階サンコートで行われました。

この日はボーイスカウト釧路地区のリーダー、スカウトたちが運営に参加し、災害から身を守る「防災危険予知トレーニング」として、パネルやゲームを通して学習。いざという時に役立つロープの結び方、新聞紙で作るスリッパ作りを指導しました。



第 25 回ワールドスカウトジャンボリー

北海道札幌第 1 団
ローバー隊 阿部優衣

2023 年の夏、私は韓国のセマングムで行われた第 25 回ワールドスカウトジャンボリーに IST（国際サービスチーム員）として参加してきました。今まで、日本スカウトジャンボリーや神社スカウト大会などの数々のジャンボリーには参加してきましたが、世界ジャンボリーに参加するのは初めての経験でした。

出発する 1 年ほど前から募集が始まり、国際サービスチーム員と言う響きから、英語はもちろん、様々な言語を話せなければならないのか、と思いました。

韓国語なんて少しもわからず、中国語も高校の授業で少し習った程度、英語もあまり得意ではない中、世界中のスカウトと交流をする機会は他にないと思い、挑戦を試みようと思いました。

新型コロナウイルスの影響により、対面での事前訓練などは開催ができませんでしたが、ZOOM での会議を何度も重ねました。ZOOM での自己紹介で多くのスカウトが前回の世界ジャンボリーに行ったことがあると知り、とても不安でした。

しかし同い年の子が多く、派遣団の方々がとてもフレンドリーなこともあり、緊張や不安はすぐ解けました。

出発の 1 ヶ月ほど前に韓国での大雨の影響で地面が水浸しになっていて、韓国のニュースキャスターが埋まりそうになっている映像がわたしの元に届きました。こんな場所で本当にテントを設営できるのだろうか、寝ることができるのだろうか、別の不安がわたしを襲いましたが、どんな環境だろうと行ってみようと思い、不安ばかりでしたが決心して行く準備を進めました。

そして、東京での結団式や出発の日の空港では東北のスカウトたちと仲良くでき、過酷な環境と知らされる中、仲間のおかげで楽しみなものに変わっていきました。

韓国に着いてすぐバスに乗り、ウェルカムセンターと言う日本のサイトとは少し離れた場所にチェックインを行うのですが、そこにはバングラデシュの IST のメンバーが既に乗っていました。

私はその場で、また会えなかったらあの時話しかけなかったのを後悔すると思い、英語で喋りかけました。そうすると答えてくれて、自分の国の文化、流行っている曲、長いバスの移動の時間でたくさん交流をし、長い間盛り上がっていました。初対面なのにとっても優しく自分の英語が通じたこともとても嬉しかったのを覚えています。

ウェルカムセンターに着き、チェックインをした後に日本のサイトが水浸しでテントが張れないことを知り、その日は IST ハブという休憩所のような場所で寝ました。

韓国は夜でも暑かったため、寝袋などはあまり使いませんでした。次の日の朝、食堂に朝ごはんを食べに行こうとしましたが、長蛇の列でした。

6時オープン前なのにたくさんの人たちが並んでおり、2時間ほど待つ朝食を食べることができました。朝食はビュッフェ式で韓国料理も多くどれもとても美味しかったです。

次に問題となるのが洗濯とお風呂です。洗濯は食堂の近くに無料のドラム式洗濯機が約20台あるのですが、到底すぐは空かず何時間も待つ洗濯をする状況でした。シャワーは水しか出ませんでした。それでも浴びれるだけ有難いと思いました。

ジャンボリーの開会式が終わり、いよいよ自分のジョブが始まります。ジョブというのは事前に希望を出し、仕事が決まるものです。私のジョブは最初ワランアワードというスカウトが楽しめるゲームなどを企画運営するジョブでしたが、メディカルチームへの異動がありました。

ジャンボリー会場には病院が至る所にあり、私はクリニックEの担当でした。ここでは、とても仲良くなる韓国人のISTのスタッフや日本とアメリカのハーフのお医者さんなど、人脈も広がりました。ここでは毎日働くのではなく、休みもありました。休みの日はメインエリアのデルタという場所へ他の国の郷土料理を食べに行きました。

私たちISTはジャンボリー会場への出入りがとても自由だったので時には会場近くの都市、扶安に行きコンビニに行ったり買い物や韓国料理を食べたりしました。韓国観光ではドイツ、イギリスの方達と扶安を回ったのも面白かったです。

カバンやチーフを交換することもとても貴重な経験で、日本のグッズはいろんな国の方が狙っているようで交換してくださいと言われていたことがよくありました。

私はリュックを香港の方、チーフをトルコの方と交換しました。そう過ごしている間に、テントは大雨で浸水したりトイレやシャワーなどの設備が不衛生だったりと環境はより過酷になりました。

私たちのジャンボリーは移動式のジャンボリーに変更になりました。私たちはお寺、大学の寮など様々な場所に泊まりました。韓国の通訳の方と仲良くなり、様々な場面で人脈が広がりました。

この、韓国で行われた第25回世界スカウトジャンボリーは私の人生においてとても大きなものとなりました。自分の言語力や喋りかける勇気によって左右される国際交流、ジャンボリーから4ヶ月ほど経った今でも続く世界のスカウトとの交流は私にとってとても宝物です。

この宝物ができたのは私の両親や北海道連盟の方々、札幌第1団の皆様の協力があったからだと思えます。本当にありがとうございました。

私は今、韓国語を勉強しています。4年後、ポーランドで会おうと言いついたスカウトもいます。

いつか、翻訳アプリ、辞書の助け無しでいろんな国のスカウトたちと話せることを楽しみに日々勉強を頑張りたいと思います。





第 25 回ワールドスカウトジャンボリー

北海道札幌第 1 団
ローバー隊 三上一輝

第 25 回世界スカウトジャンボリーは大韓民国セマングムでの開催で、私は IST（国際サービスチーム）としての派遣であった。初めに、今回のジャンボリーはインフラ整備に問題があったり様々なことが世界的にニュースになったが私にとっては素晴らしい経験と楽しい思い出のジャンボリーとなった。そして新型コロナウイルスの脅威もある中、開催してくれた全てのスタッフと韓国政府や地域の方々に深く感謝したい。

初めての IST としての参加になった今回のジャンボリーは出発前から期待が膨らんでいた。会場に到着したのは夜の 23 時頃でそこでの光景は我々 IST しか見ることは出来なかったであろう。

まだ灯りが少なくテントもほぼ立てられていないその土地はこれから世界 158 国から 4 万人以上のスカウト達を迎えることを楽しみにしているようだった。IST にはそれぞれ仕事が割り振られている。私の仕事はイベントサービスチームと言い開会式や閉会式などのイベント時にそのイベントが円滑に進むように参加者をコントロールする仕事だ。

参加隊の時と違い一人一人に仕事の責任があるので引き締めて参加しなければならない。最初にトラブルが起こったのが開会式へ参加者が向かっている時だ。日陰が少ないからか、水飲み場が少ないからか、体調不良により倒れる参加者が続出し救急車が絶えず出動した。

噂によると 400 人近く救急車で会場内の病院に運ばれたらしい。私は救急車が円滑に進めるように参加者を道の端に寄せたり体調不良を訴えるスカウトに水を提供したりした。

イベントサービスチームはイベントがない日は暇なので仕事の仲間とカラオケをしたり踊ったり会場内をサイクリングしたりした。

そんな充実した生活を送っていた中でコロナが蔓延したり怪我人が出たり熱中症が続出したりと少しずつ不穏な空気が会場を包んでいた。

8 月 7 日台風の接近により翌日 8 日に撤退することが決まった。7 日の夜に会場での最後のイベントが開催された。実質それが私の最後の仕事となった。仕事が終わった後私は同じチームの仲間と一晩中話していた。

翌朝 5 時頃から体調が悪くなったと感じ、初めは寝不足によるものだと思ったが台湾の友達に診療所に連れて行かれ 38 度以上の発熱があると発覚。その後救急車で PCR 検査するところで検査を受け陽性となり、そこから炎天下の中 20 分歩き会場内の病院に行き薬を貰い 30 分歩いて自分のテントに戻ったもののテントは既に畳まれてしまって、重さ 20kg 弱ある自分の装備を持って 15 分かけてスタッフ食堂まで歩いた。これが今回のジャンボリーでいちばん辛い半日であったと振り返る。

その後日本隊は、そこからバスで 4 時間以上かけて韓国天台宗の総本山である「救仁寺」に到着した。寺では 3 泊したが、隔離されていてほかの感染者と共に寝たきりだった。ただ現地の方々から差し入れてトウモロコシなどを貰いとてもありがたい気持ちになった。

8 月 11 日お世話になった寺を後にし、閉会式のために我々はソウルへと向かった。韓国政府の威信をかけた閉会式は大変な盛り上がりを見せた。体調も回復し 8 月 14 日無事に帰国した。

ジャンボリーというのは普段の訓練と違い楽しいのがジャンボリーであり、それをサポートするのが IST としての役割だ。巷では史上最悪のジャンボリーなどと言われた今回の大会だが、困難な事が起こってこそそのボーイスカウトでありそんな時こそ鼻歌を歌わなければならない。

間違いなく私にとっては二度とできないいくつもの経験をさせてもらった最高のジャンボリーになったので携わった全ての人に感謝したい。





新春弥栄

2024 新春 誌上賀詞交換

謹賀新年

北海道連盟 連盟長
北海道神宮 名誉宮司

吉田 源彦

謹賀新年

北海道連盟 副連盟長
北海道スカウトクラブ 幹事長

大橋 和子

新春弥栄!

《道連維持財団への更なるご理解とご支援を》

北海道連盟維持財団 評議員
北海道連盟スカウトクラブ 会長
旭川地区協議会 元副協議会長

宮内 紀代志

あけましておめでとうございます

胆振地区

地区協議会 会長	滝口 信喜
地区協議会 副会長	熊野 正宏
地区委員会 委員長	小笠原 貢
室蘭第1団 団委員長	高倉 健司
登別第1団 団委員長	木原 靖之
伊達第1団 団委員長	辻 正博
苫小牧第2団 団委員長	永井 承邦
コミッショナー	村中 啓子
事務長 代行	小笠原 貢
地区 会計	長田 孝子
地区 監事	福井 洋幸
地区 監事	松橋 恵一

新年のお慶びを申し上げます

石狩地区

地区顧問	大橋 和子
地区顧問	猪股 巖
地区協議会長	佐々木 健三
地区委員長	小林 幸治
地区副委員長	高塚 浄正
地区事務長	喜多 英司
コミッショナー	柴崎 勇人
副コミッショナー	佐藤 雅秀
副コミッショナー	今野 桂子
副コミッショナー	飯田 康弘

謹賀新年

ボーイスカウト北海道連盟 監事
札幌第4団 団委員長

北 秀継

新春弥栄

札幌地区協議会

顧問	藤岡 順正
相談役	北野 義城
地区協議会長 (健康安全委員長・国際委員長)	樟本 賢首
地区副協議会長 (地区副委員長)	北 秀継
地区委員長 (組織拡張委員長) (真狩野営場管理運営委員長)	菊地 一泰
地区副委員長 (真狩野営場管理運営副委員長)	陰能 裕一
進歩副委員長	菊池 重芳
野営行事委員長	武市 喜博
広報委員長	千葉 邦郎
財政会計委員長	荻根沢 一也
事務長 (指導者養成委員長)	小竹 知巳
監事	二木 恒治
監事	野内 吉徳
地区コミッショナー	上原 克己
副コミッショナー	瀧澤 ひろみ
副コミッショナー	武市 喜博
副コミッショナー	菊池 重芳

新春弥栄

留萌地区

留萌第1団 団委員長	櫛井 二三夫
留萌第2団 団委員長	下田 満
秩父別第1団 団委員長	寺迫 公裕
羽幌第2団 団委員長	小寺 克彦
美唄第8団 団委員長	マンフレード フリデリッヒ
地区協議会長	櫛井 二三夫
地区委員長	寺迫 公裕
地区コミッショナー	木下 亮

明けましておめでとうございます
今年もよろしくお祈りします

ボーイスカウト北海道連盟札幌第9団

育成会長	坂田 智亮
副育成会長	北野 義城
団委員長	樟本 賢首
副団委員長	北野 和

謹賀新年

旭川地区協議会

地区顧問	野原 典雄
地区顧問	川村 武雄
地区顧問	森 豊
協議会長	森 豊
副協議会長	浅野 玲子
地区委員長	高橋 明
地区副委員長	山口 淳
野行委員長	山口 淳
組織広報委員長	高橋 明
リーダー委員長	杉田 肇
野営場委員長	天満 昇
財政委員長	高橋 明
会計	高橋 明
事務長	河崎 紀男
監事	池内 勝
コミッショナー	杉田 肇
副コミッショナー	村上 政義

新春弥栄

日本ボーイスカウト北海道連盟
秩父別第1団 団委員長

寺迫 公裕

新春弥栄

日本ボーイスカウト北海道連盟
釧路第6団

育成会長 相澤 真一
団委員長 菅原 宏樹
副団委員長 藤田 茂

謹賀新年

日本ボーイスカウト北海道連盟

理事長 三国 久介

謹賀新年

スカウトに楽しいプログラムを！

日本ボーイスカウト北海道連盟

副理事長 下田 好徳

謹賀新年

= 組織拡充は力なり =

日本ボーイスカウト北海道連盟

副理事長 高橋 明

謹賀新年

日本ボーイスカウト北海道連盟

コミッショナー 今井 建

新春弥栄

日本ボーイスカウト北海道連盟

常任理事 池田 君松

新春弥栄

日本ボーイスカウト北海道連盟

常任理事 野内 吉徳

新春弥栄

日本ボーイスカウト北海道連盟

常任理事 得能 和成





斧の響き 160号 (2024年1月1日発行)
発行・印刷：日本ボーイスカウト北海道連盟／発行責任者：北海道連盟 理事長 三国久介
〒062-0934 札幌市豊平区平岸4条14丁目3-40
北海道ボーイスカウト会館内
Tel 011-823-7121／ Fax 011-814-9377 E-Mail bs-hokkaido@douren.org